



Title	由本陽子教授の略歴および主要研究業績
Author(s)	
Citation	言語文化研究. 2023, 49, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/90942">https://hdl.handle.net/11094/90942</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 由本陽子教授の略歴および主要研究業績

### 略 歴

1980年 3 月	神戸女学院大学文学部英文学科卒業（文学士）
1981年 4 月	大阪大学大学院文学研究科博士前期課程入学（英文学専攻）
1983年 3 月	大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了（修士（文学））
1983年 4 月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程入学
1986年 4 月	日本学術振興会特別研究員（1987年 5 月まで）
1987年 3 月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学
1987年 6 月	大阪大学言語文化部助手
1988年 3 月	大阪大学言語文化部講師
1991年 4 月	大阪大学言語文化部助教授
1997年 8 月	文部省在外研究員 ロンドン大学 SOAS(1998年 4 月まで)
2004年 2 月	大阪大学文学研究科 博士（文学）
2007年 4 月	大阪大学言語文化研究科教授
2015年 9 月	大阪大学副理事 グローバル連携室員（2019年 8 月まで）
2019年 8 月	大阪大学総長補佐 男女協働推進オフィス員（2021年 8 月まで）
2023年 3 月	定年により退職

### 主要研究業績

#### 【著書】

1. 『語形成と概念構造』（影山太郎氏との共著）「動詞から動詞を作る」，研究社出版，1997年 9 月．
2. 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』（単著），ひつじ書房，2005年 7 月．（第24回新村出賞受賞）
3. 『レキシコンに潜む文法とダイナミズム』（単著），開拓社，2011年 10 月．
4. 『複雑述語研究の現在』（岸本秀樹氏との共編著），ひつじ書房，2014年 1 月．
5. 『語彙意味論の新たな可能性を探って』（小野尚之氏との共編著），開拓社，2015年 11 月．
6. 『名詞をめぐる諸問題：語形成・意味・構文』（岸本秀樹氏との共編著），開拓社，2020年 10 月．

他 7 冊

## 【論文】

1. “The Role of Aspectual Features in Morphology,” *English Linguistics* 8 (日本英語学会), 1991年12月, pp.104-123.
2. “Verb Prefixation on the Level of Semantic Structure,” In Kageyama, Taro (ed.), *Verb Semantics and Syntactic Structure*, Kurosio Publishers, 1997. 1, pp. 177-204.
3. “A Modular Approach to the Semantic Interpretation of Syntactic V-V Compounds,” *Journal of Japanese Linguistics 17 Special Issue: The Interface between Lexical Semantics and Syntax/Morphology*, 2001. 12, pp.125-150.
4. “Variation in N-V Compound Verbs in Japanese,” *Lingua* 120, 2010. 5, pp. 2388-2404.
5. 「「名詞＋動詞」複合語の統語範疇と意味カテゴリー」, 益岡隆志 (編) 『日本語研究とその可能性』, 開拓社, 2015年6月, pp. 80-105.
6. “Conversion and Deverbal Compound Nouns,” In Kageyama, Taro and Kishimoto, Hideki (eds.), *Handbook of Japanese Lexicon and Word Formation*, Mouton De Gruyter, 2016. 1, pp. 311-345.
7. “Semantic Interpretation of Japanese Verbal Compounds Revisited,” In Hae-Sung Jeon (ed.), *Japanese/Korean Linguistics* vol. 28, CLSI Publications, Stamford, 2021, pp.17-37. 他71編

## 【研究発表】

1. 「Un-, Non- 派生語の LF 表記に関する一考察」, 日本英語学会第3回大会, 1985年11月 (於大阪大学).
2. “Modularity of Word Formation: Differences between Two Types of Japanese Compound Verbs,” International Symposium on ‘Language, Mind and Brain’, 2006. 10 (Akita University).
3. 「複雑述語の形成に伴う事象構造の合成と項の実現」, 『2007中日理論言語学研究国際フォーラム』, 2007年9月 (於北京大学).
4. 「「名詞＋動詞」型複合語の統語範疇と意味カテゴリー」, 『シンポジウム：日本語研究とその可能性—音韻・レキシコン／語彙・文法を中心に』, 日本言語学会第147回大会, 2013年11月 (於神戸市外国語大学).
5. 「複合語形成から明らかになる部分名詞と形質名詞の性質について」『シンポジウム：語彙・構文の文法現象における名詞の役割』(企画・進行：由本陽子)、日本英文学会関西支部第12回大会、2017年12月 (於 京都女子大学). 他32件

## 【その他】

受賞歴 4 件, 共著翻訳 2 冊, 事典分担執筆 3 件, 公開講演 8 件, 書評等 7 点, 外部資金助成実績 11 件.